

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	山口県宇部市立川上中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	20
生徒数	87	95	83	1	266	

研究の概要

1 研究主題

生徒の「学ぶ力」を育む学習指導	～学力向上をめざした教科指導の在り方～
-----------------	---------------------

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年、全教科 全ての教科において学力を身に付けさせることが重要であるから。</p> <p>1年生、2年生、3年生の数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。また、少人数による授業など、きめ細かな指導を行うために必要な人的措置がなされているため。</p> <p>2年生と3年生の英語 生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。また、少人数による授業など、きめ細かな指導を行うために必要な人的措置がなされているため。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 教師間で「学力観」「評価の考え方」について共通理解を図り、指導方法・指導体制の在り方を教科毎で研究する。</p> <p>研究の見通し(仮説) 学力の基礎・基本を培う教科指導において、個に応じた指導方法・指導体制の在り方を研究・実践することにより、生徒一人一人の基礎学力を向上させることができるのではないか。一年次は、「学力」や「評価」についての理解を深め、実践のための基盤づくりに力を注ぐことが肝要と考える。</p>
--------	---

平成 14 年 度	<p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学力観」や「評価の考え方」についての共通理解を図る。 ・ 生徒一人一人の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導方法や、指導体制の可能性を教科レベルで検討する。 ・ 数学科、英語科については、習熟度別少人数指導を視野に入れ、個に応じた指導方法を工夫、改善する。
--------------------	--

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p>各教科で「確かな学力」の内容を具体化し、それを生徒に身に付けさせるための指導方法の工夫や改善に努める。</p> <p>数学科と英語科においては、習熟度別指導を組み込んだ少人数指導の指導方法や指導体制の工夫、改善に努める。</p> <p style="text-align: center;">〔 一年次の取組で、教師間で「学力観」「評価の考え方」について共通理解が図られたと考えられ、研究をさらに深化させるためにテーマを変更した。 〕</p> <p>研究の見通し</p> <p>各教科において「確かな学力」の内容を具体化し、それを生徒に身に付けさせる指導の在り方を研究することで、生徒一人一人の学力向上を図ることができるであろう。</p> <p>特に、数学科と英語科においては習熟度別指導を組み込んだ少人数指導を実施していく。その過程で試行錯誤しながらも指導体制や指導方法の工夫、改善がなされていくであろう。</p> <p style="text-align: center;">（上記のようにテーマを変更したため。）</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>少人数指導や習熟度別少人数指導の実施及び指導方法・指導体制の研究は、指導教員の加配が重要な条件であるので、そのような措置がしてある数学科と英語科を中心に行うこととする。</p> <p style="text-align: center;">〔 数学と英語以外の教科は、可能な範囲内で個に応じた応じたきめ細かな指導を行い、「確かな学力」の向上に努める。 〕</p> <p>【数学科】</p> <p>1年生（週3時間）、2年生（週2時間）、3年生（週1時間）、TT指導・機械的分割による少人数指導・習熟度別少人数指導のいずれかで指導する。どの指導形態で行うかは、学習内容（単元）により決める。</p> <p>【英語科】</p> <p>原則として、2年生と3年生の週3時間の授業全てで習熟度別少人数指導を実施した。基礎・基本（A）と応用・発展（B）の2コース制とし、コース選択は定期テストを区切りとして生徒選択とした。</p> <p>Aコースは、教科書を中心に基礎的・基本的な内容の習得に努め、適宜、応用・発展的な内容を取り入れた。</p> <p>Bコースは、教科書の内容はもとより、これに加えて教科書にない語句や表現を指導</p>
--------------------	--

した。さらに、教科書の内容をもとにしてオリジナルのスキットを作らせて発表させた。その様子をビデオで撮影し、他のクラスの発表をお互いに視聴した。また、リスニング教材の内容に生徒自身のアイデアを盛り込んだ掲示物を作成し、お互いに鑑賞することで今後の学習の参考にした。

平成
16
年
度

テーマ

各教科で「確かな学力」の内容を具体化し、それを生徒に身に付けさせるための指導方法の工夫・改善に努める。

数学科と英語科においては、習熟度別指導を組み込んだ少人数指導の指導方法や指導体制の工夫・改善に努める。

研究の見通し

各教科において、個に応じたきめ細かな指導方法の在り方を研究・実践することにより、生徒一人一人に「確かな学力」を身に付けさせることができるのではないかと。

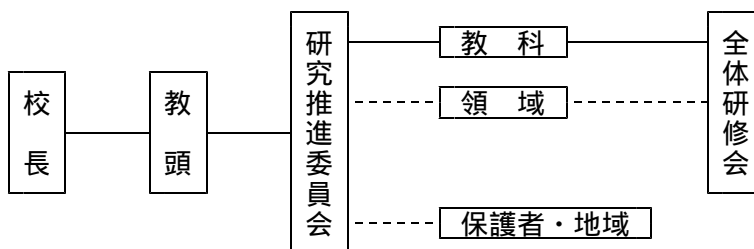
特に、数学科と英語科においては習熟度別指導を組み込んだ少人数指導を実施していく中で、試行錯誤しながらも指導体制や指導方法の工夫、改善がなされていくであろう。

研究の内容・方法

数学科と英語科における少人数指導や習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな指導の実施と指導方法・指導内容を工夫・改善する。

数学科と英語科以外の教科において、基礎的・基本的な学習内容を身に付けさせ、「確かな学力」を保証するための指導の実施と指導方法・指導内容を研究する。

(3) 研究推進体制



研究推進委員会：教務主任、研修主任、数学科主任、英語科主任、道徳主任、
「総合的な学習の時間」担当教員

1. 研究の成果

数学科

1年生では週3時間すべてでTT指導または少人数指導ができるようにしたので、その単元にあった授業形態を効果的に実施することができた。

アンケートでは、常に生徒の大半がTTあるいは少人数指導の良さを認めている。

英語科

生徒の中にコース別に分かれることからくる差別感や劣等感などのマイナス・イメージがなく、本校独自で行ったアンケートでは常に8割以上の生徒が習熟度別少人数指導の方がよいと回答している。

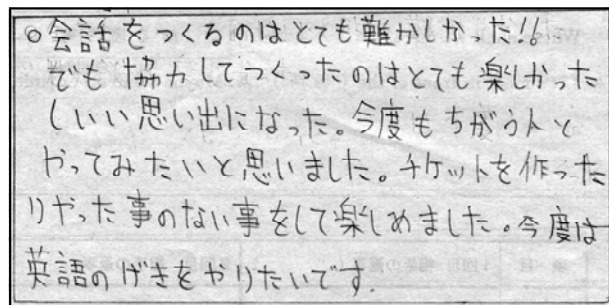
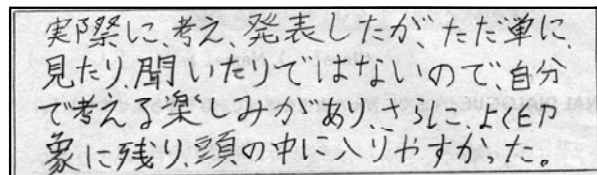
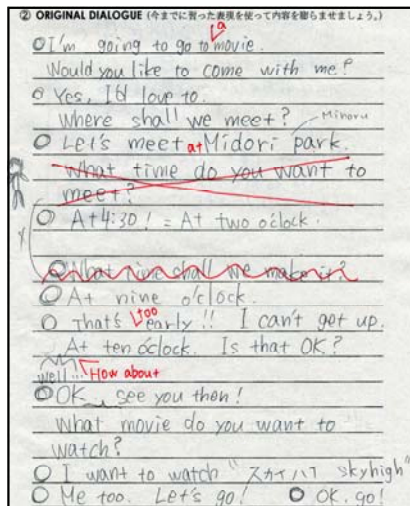


その主な理由は次の通りである。

- ・自分のレベルにあったコースを選ぶことができるから。
- ・人数が少ないので集中して授業に取り組めるから。
- ・先生に細かく面倒を見てもらえる（指導してもらえる）から。

生徒の感想文から、Bコースで行った発展的な学習を生徒は楽しんで行っており、英語を使った表現活動に興味・関心が高まったことがわかる。【資料参照】

【資料】スキット発表の生徒原稿と、実施後の感想



2年生の1学期中間テストの得点分布【グラフ・1】と、2学期期末テストのそれ【グラフ・2】を比較すると、得点分布の二極分化が緩和されていることがわかる。

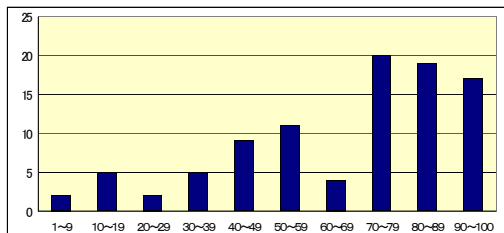
平均点がほとんど同じ（67.6点と66.3点）にもかかわらず、得点分布の状況が大きく異なっている。最も顕著な違いは、平均点を若干下回る部分の度数が高くなっている点である。これは、理解や習熟の度合いがやや不十分である生徒の学習状況が向上したためと考えられる。

2年生の2学期期末テスト得点分布と、同じ学年が1年生の時の2学期期末テスト得点分布を比較したものが【グラフ・3】である。

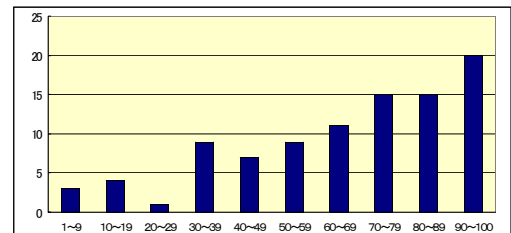
枠で囲んだ部分からわかるように、やはり2極分化が緩和されている。度数の最も多い得点幅が得点の高い方にシフトしており、平均点は62.6点も66.3点に上がっている。

この学年は、1年生の時には習熟度別少人数指導を全く実施していない。したがって、これらの変容は、習熟度別少人数指導の実施により生徒の学習状況が向上したものと考えられる。

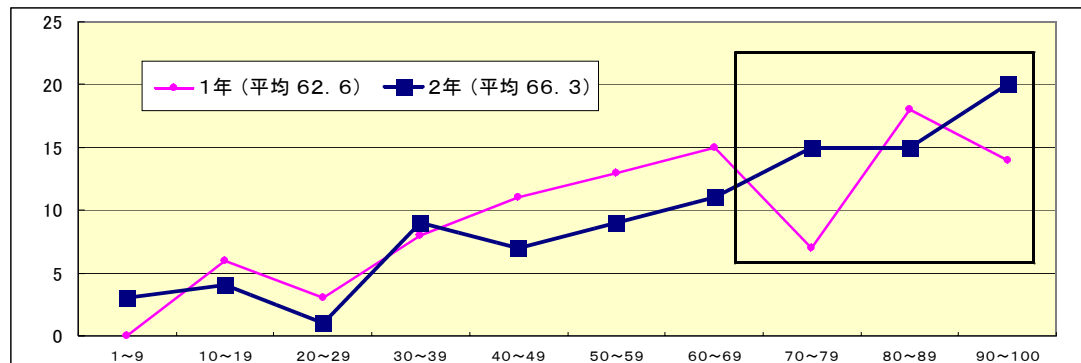
【グラフ・1】1学期中間テスト、平均点 67.6



【グラフ・2】2学期期末テスト、平均点 66.3



【グラフ・3】同一学年の前年度定期テスト得点分布との比較



2. 今後の課題

【数学科】

習熟度別少人数指導の、指導内容の精選やより効果をあげるための教材開発等、授業の質の向上を図ることが必要である。

単元ごとの授業形態が、生徒が「分かる」「できる」という実感をもつことができ、学習効果を高めることにつながっているかどうかを検討していくことが必要である。

【英語科】

Aコースは、基礎的・基本的な内容を指導するコースであるので、それに見合った指導方法や指導内容をさらに研究する必要がある。同様に、Bコースにおいても指導内容や指導方法についてさらに工夫・改善する必要がある。

【数学と英語以外の教科】

二次末に各教科において「確かな学力」の内容を具体化し、それを培うための指導内容や指導方法の改善に取り組んだが、今後ともこの方向で研究を進めていく必要がある。

生徒を対象にした授業改善アンケートを実施したが、その集計結果等を今後の授業改善にどう活用していくかが課題である。

学力等把握のための学校としての取組

一年次は、C R T（目標規準準拠検査）を全学年で1回実施した。1・2年生は1月、3年生は12月に実施した。

二年次は、同じくC R Tを2年生を対象に1月に実施した。

また、山口県中学校教育研究会教科部会による山口県共通テストを理科（3年）・数学（全学年）・英語（全学年）において毎年実施している。

いずれも生徒の学力を把握し、生徒の学習改善や授業改善に活用するために行っている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

中間発表を実施した（平成15年11月18日）。

内容は、公開授業、研究発表、分科会（数学・英語）である。

一年次にひきつづき、二年次も研究集録を作成する予定である。

山口県教育委員会のHPに本校の取組についての内容を掲載する予定である。

宇部市中学校研究会英語部会の総会において、本校の英語科の取組を発表した。

公開授業（英語）のビデオ視聴と批評を近隣中学校の英語科教員に依頼し、取組の普及に努めた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級

7～9学級 10～12学級

13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導

その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科

外国語 音楽 美術 技術・家庭

保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無